

## レター通信 NO2 アートセラピースタジオ兼自宅リフォームから10年

生活環境・企画設計工房

今年4月に、森山政与志さんが「生活環境・企画設計工房」を設立され、私も副会長をさせて頂いております。多様な分野でご活躍されている方にアドバイザーとしてご参加を頂いている工房です。当社では、会社の定款に「アートセラピースティックを取り入れた設計・インテリア」という項目があり、私自身も、設計による生活意識の変化にとっても関心があります。



今回は、事務所兼自宅のリフォームの折のことを、工房で発行しているレター通信で取り上げましたのでご紹介させていただきます。森山さんは一級建築士ですがご病気により現在も左半身付随の障害者ですが、その実力と感性は、多分健常の時と差がないと思われ、仕事上でも多くのアドバイスを頂いております。リフォーム等で何かご参考になることがありましたら幸いです。

### 1、はじめに

施主(ユーザー)の希望に応えるリフォームを設計者と棟梁がどのように進め、三者が喜ぶ結果が得られたかを、当工房の副代表である黒須さんの事例で紹介させていただきます。

また、その後の使い勝手、職場として使用した際の当初の希望が、どのように満足されていたか

を知ることが出来るので、これからリフォームを考えている人達や、それを支える設計者と施工者にとっても貴重な資料となります。



アートセラピスト  
アカデミー(有)

### 2、施主(ユーザー)の希望

アートセラピスト/ 黒須 美枝

#### (1)経緯

平成16年にアートセラピストアカデミー(有)を大宮の東口に事務所を借りて設立しました。

最初は、日々慌ただしくて、気にならなかったのですが、徐々に、西口にある自宅からの約40分程の通勤(徒歩)時間がもったいないと思い始めました。

しかし、自宅を事務所として使用するためには、リフォームが必要であり、悩みましたが、別に借りていることで今後のかかる費用を考えると思い切って、リフォームをしたほうが良いということに思い至りました。

そして森山さんにご相談しました。小さな自宅のリフォームをお願いして良いものかどうか、躊躇したのですが、快く引き受けてくださいました。

#### (2)希望

以下、私が森山さんをお願いした項目です。

- ①できるだけ安いコスト
  - ②仕事に適した機能性
  - ③自分の思うイメージ
- ①はもちろん全部の項目を緻密に御検討頂きました。
- ②は具体的には前の事務所にあった家具を森山さんの指示により詳細にサイズを測ること

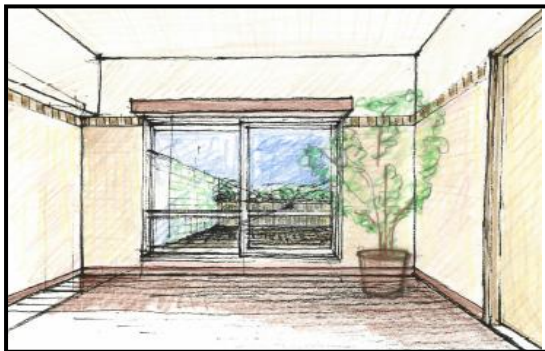
から始まり、それまで幾度かの引っ越しの際も詳細に測ると言うのは、経験がなく、アバウトだったことをひしひしと実感しました。

また、画用紙の収納用に特別な棚を創って頂き、いまだに眺めるだけでも、美しく、自分の大好きな風景である山間部の棚田に似ています。

自分にとって、ある意味で一番重要なことが③でした。これは自分の癖なのですが、なんにでも両方のイメージをほしがってしまいます。

例えば静かで活発・開放的だけれど緊張・新しいけれど古風・安定だけれど流動感・熱いけれどひんやり等々です。

### (3) どう進めたか？



スケッチで三者がイメージを確認の後に施工

これは自分の好きな服のイメージとほとんど同じで、そんな空間にいと、とても心が落ち着き、また私なりのインスピレーションが湧いてきます。言うは易しですが、これを具体的にととなると、難しいものです。壁紙の色や棚の場所など、素人なので、個々のパーツをどう選択すれば、自分のイメージ通りになるのかが分かりませんが、折々に森山さんがイメージのスケッチを描いてくれました。デフォルメされたものではなく、自分の家の等身大のそれであり、とて



画用紙収納棚

も現実的でした。

素人ゆえの間違いの一つが階段の壁紙がオレンジとピンクで、最初見た時は、かなりショックで、そんな色彩の家では住めないと思い、強引にお願いして一部をクリーム色に変更しました。森山さんからは、創り中のもともと無かった外部の塀ができれば、全然違和感はないと言われましたが・・・。

しばらくして、木製の塀ができたところ、ドアを開ければ、オレンジとピンクは、塀とともに相性が良く、張替えたことを後悔したのが、昨日のこのようです。

### (4) セラピー空間

理屈っぽい話で恐縮ですが、常々空間は目的をもっていると思います。その場の目的に副った設計やインテリアがなされていることで、安心感が生まれる。そういう意味で、今回の部屋の目的は、セラピーに適しているかどうかが重要でした。そして自分の思うセラピー空間とは、先ほどとは一見矛盾しているように思われるでしょうが、「目的が無い」と言う目的です。



おもてなしの灯り



正面ピンクの壁



ワクワクと不安

目的とは、自分にとっては生活や人生のなかで、分化されている価値観です。例えばお金を使いやすい場所、身体を動かしやすい場所等々です。

自分の思う「セラピー空間」とは、そんな具体的な目的からは距離感のある混沌とした矛盾



セラピーの小道

だらけの人の心を受け入れやすい場所、簡単に言うとそんな場所です。そんな抽象的な目的を現実而降ろしていく、そのプロセスに森山さんがいなければ、きっとずっと家具を変えたりカーテンを変えたりし続けたのではと思います。

イメージを現実に降ろした具体的な設計とは、「他の予算より絨毯を優先する」、「訪問者の心の切り替えのために塀を創る」、「窓の数を減らす」「ホワイトボード用の照明をつくる」など、沢山あります。

維持のポイントは掃除と花で、ずっと自分の仕事を支えています。また施工をしていたいただいた松本木材工務店の菅家さんにも、心より感謝しております。

高校まではかなり学校嫌いでしたが、それは、場所の特化した目的と自分が合わなかったということがあるかと、今は思います。自分が落ち着く無目的の場所のあるおかげで、今は、目的の限定された場所にいてもそれほどスト

レスを感じません。それは自分の心の健康と密接であり、かくも多様に、今の仕事部屋に感謝しています。

#### (5)リフォーム間奏曲

リフォームのスタートと完成の間に、実は、想定外と言えるほどの時間が必用でコストを安くするために、大変だとは当初から思っただけですが・・・。

壁紙やタイルの色の違いは、微妙で、カタログだけでは、限界があり、森山さんと共に、それらのディスプレイショップに、何度足を運んだことでしょう！

そういうショップは、予約性になっていたり、スタッフに気を使ったりして、案外疲れました。

部屋のドアも価格によって様々であり、自分のイメージにあるのは、とても高いと言うことも、高額低額の見本を見ながら、身にしてみてきました。外のテラスに使う資材も、暑い中ちよつと埃っぽい展示場を幾度も通いました。



アートセラピースタジオ



「いいと思うパーツは高い」、段々テンションが下がっていく私に、森山さんは気づいていたと思います。高いものを使わなくても、いいものができる、と言うことを自分が理解できたのは、多分八分ほどの完成時からだったと思います。

設計によって、低価格の素材でも組み合わせることで、ケミカル的な変化が起きたと実感しています。変化していく間、結果が素人には見え、専門家にしか見えないことも、良く分かりました。「これでいいんだろうか？」と途中疑問に思い出す素人(私)を相手にするのは、本当に大変なことです。

店頭でのパーツの写真やサイズを記録するのも、埃っぽい場所が多いので、バッグを下に置けない状況とか、もし購入するとしたら、納期はどのくらいかかるか等をスタッフに聞くのも案外疲れます。そこでは買わないことは、分かっているのに、スタッフさんが熱心だと内心申し訳ないような気分になります。

そんなことは、特別気にすることではないでしょうが。森山さんが次々に指示してくることをこなすのは、正直なところ、とても神経を使う日々でした。労を惜しめばいいものはできないことが、後々は分かったので、今思えばいい体験でした。お店に、メモのために台とかが、あればいいなと思いました。

工事は真夏で、暑く、大工さんの来られる時間も段々早くなっていき、最初は7時、6時30分、6時、一カ月間ほど、毎朝5時前起きとなり今思えばとても楽しく心より感謝しております。

森山さんが設計担当をされた「ラフレさいたま」は大きな施設ですが、個人的には、「お金を沢山使えば、誰



ラフレさいたま

が設計してもいいものを創れるのでは」と、実は内心思っていました。しかし、自分の小さな家のリフォームを通して、やはり、スケールの大きい設計をされていたからこそ、その空間感覚が小さなリフォームに転用されていくこと、それは「マジック」的な感覚を感じました。いいものは、ラクをしてはできないということも強く思うリフォーム体験でした。

森山さんと棟梁の菅家さんは、長いお付き合いがあります。私自身も森山さんから仕事へのアドバイスを長年頂いていたと言う、ベースがあります。それによって、言いたいことを本音でお伝えすることができました。「いいもの(&情報)、いい事」が行きかい、ささやかでもお金を生み出す人間関係、こういう豊かさに最も心惹かれます。でも生活のなかで、こういうことが一番難しいとも思います。今回、お二人の長年培われた信頼関係に自分が便乗させて頂いたと、強く感じています。

### 3、設計にあたり

左半身不随の一級建築士/ 森山 政与志

#### (1) どう、気持ちを切り替えるか？

20代の初め知り合った陶芸家を目指す青年は鎌倉在住の師匠のもとに住み込みで修行に励んでいた。訪ねた際、仕事場に行こうと言われ洞窟を抜けた。そこは以前には水があり、主人(魯山人と聞いた)は船を漕いで日々往復し、気持ちを切り替えていたと聞いた。

黒須さんから依頼があった時、そのことを思い出した。ごく一般的な住居で、かつ限られたコストで実現出来ないものかと意欲が湧いた。

リフォーム物件はバス通りに面した建売住宅の奥まった一角に建つ。そこに住む住人であ

りアートセラピストである黒須さんとアートセラピーを受講するお客様の気持ちを日常(生活)から非日常に切り替えるプロセスを以下の三点に絞って演出(設計)した。

- ①バス通りからのアイキャッチと玄関まで
- ②玄関から2階仕事場
- ③2階仕事場

①は玄関前が外から見通せるため、プライバシー確保のため、市販品の木製テラスを三方に回し、入り口の門の傍に市販品のステンレス製銘板を取り付けた。玄関までの内部空間はテラスを設け観葉植物や椅子等を置き、住宅地とは異なる、ほんの短い距離だが雑踏から静けさが味わえる雰囲気とした。

②は正面の壁紙をピンク色とし、住居感を無くし、お洒落な照明器具をぶら下げ、決して上り易いとは言い切れない階段だが、タペストリー調のカーテンを下げるなどして、これから始まるアートセラピーへの期待感を持たせた。

③は2階の二部屋を一室として仕事場に充て住居用サッシを一部ふさぎ外部からの視線や騒音をシャットアウト、一部は障子を室内側に設け、インテリア性を高めた。ポイントの一つは収納で、既存一室は資料室とし既存の空調機を移し替え、作業の快適性を高めた。黒須さんの仕事で特徴的なのは画用紙とクレオン等を使う事で、収納し易い棚を特注した。

## (2)棟梁のおかげ

熱意が様々な希望を・・・！コストが限られた今回のリフォームが三者が喜ぶ結果に終わられたのは棟梁の力が大きいです。二階の壁

を抜き一室に出来たのも画用紙専用の収納棚壁もそのお陰です。設計者としても、こうしたいがどう作ったら良いかなどのアドバイスに様々な知恵を教えられました。棟梁の技を聞ける一級建築士は、意外と少ないものです。

## 4、施工にあたり

棟梁/ 菅家 生喜

私は森山設計士からアートセラピストアカデミーという言葉を知りました。セラピーとは何か？から学びました。

自宅のリフォームという事で引き受けましたが、図面と話を聞いているうちに、色々な要望がある事を知りました。



下端を切り詰めた既製

施工側から見ると想像も付かない事が色々有りましたが仕上がると、納得の事も多々有りました。(特に色彩)

コストを下げる為に既製品の家具を取り入れサイズを切り詰めたり、色々有りましたが『お陰で何年たっても飽きない形で残っています』との黒須様の喜んで下さった事が、施工側としてもうれしい事です。

最後になりましたが、森山設計士さんから又、色々な指導を宜しくお願ひします。

**L.E.D.studio**  
Living Environment Design Studio  
生活環境・企画設計工房

発行者:生活環境・企画設計工房  
連絡先/moriyama420@saitama.email.ne.jp  
発行日:H28年10月15日(土)